

〈解答〉

- ① 1 へだ 2 ごうまん 3 まったん
4 貸 5 指揮 6 秒針

② 1 C・D・E (順不同・完答)

- 2 I [例] 手をたたきながら (8字) II [例] かわいらしい (6字)
3 ウ
4 (季語) 遠雷 (季節) 夏 (両解)
5 ア
6 F

配点 ② 2 I、IIは各2点、他は各1点 15点満点

〈解説〉

- ①
- 1 「隔」の音読みは「カク」で、「隔離」「間隔」などの熟語として用いられる。
 - 2 「傲」「慢」とも「人を見くだし、おごること」という意味の漢字で、「傲慢」は「おごりたかぶって人を見くだすことや、そのさま」という意味になる。
 - 3 「末端」には「物のはしの部分」「組織などの中央から最も遠い部分」という二つの意味があり、この問題では後者の意味で使われている。「末」の訓読みは「すえ」、「端」の訓読みは「はし」「はた」である。
 - 4 「貸」の音読みは「タイ」で、「貸与」「賃貸」などの熟語として用いられる。「貸」には、「貸」「賃」など部首が同じで形の似た漢字があるので注意する。また、「貸す」と書く場合に、「貸す」の対義語である「借りる」と混同して書き誤らないよう気をつける。
 - 5 「指揮」は「全体がまとまりをもって動くよう、人の上に立って指図をすること」「合奏や合唱などの演奏を統率すること」という意味。
 - 6 「秒針」とは「時計の秒を示す針」のこと。「針」は、「針のむしろ (一時も心の休まらない、つらい場所や境遇のたとえ)」という慣用句や、「針小棒大 (小さな事柄を大げさに誇張して言いたてることや、そのさま)」という四字熟語に使われる漢字である。

- 1 Cの短歌は「花」、Dの俳句は「耳かざり」、Eの俳句は「ひとり言」という名詞でそれぞれ終わっている。体言止めには、その歌や句に余韻や余情を生じさせる効果がある。
- 2 Aの短歌の内容は「親からおかゆを食べさせてもらうためにわが子は二本の歯をあらわにして口を開け、おかゆが口に入るのを手をたたきながら待っている」というもので、食事時の子どものかわいらしい様子を描き、その愛らしさに明るい気持ちになっている親の心情が表現されている。
- 3 Bの短歌の作者は、「小さな蟻にも一匹一匹にみな影があるんだ」という発見をし、その発見に対する感動がこの短歌の主題となっているのである。
- 4 Dの俳句の季語は、「遠くの方でなっている雷」を表す「遠雷」で、「かみなり（雷・神鳴り）」「いかづち（いかずち）」「雷鳴」「雷光」と同じく夏の季語である。ちなみに、E、Fの俳句の季語は、それぞれ「月（月よければ）↓良い月・良月」「すすき」で、季節はともに秋となる。
- 5 句切れとは、短歌や俳句の中にある内容的な切れ目やリズムの切れ目をいう。俳句の場合は「ぞ」「や」「かな」「けり」という「切れ字」によって句切れの位置を確かめることが一般的である。Eの俳句は初句の終わりに「や」という切れ字があるので、「初句切れ」となる。ちなみに、D、Fの俳句の句切れは、D∥初句切れ、F∥句切れなしとなる。なお、短歌の句切れは、意味を確かめながら読んでいて「。（句点）」が入る場所である。俳句と短歌では、句切れを見分ける方法に違いがあるので注意をする。
- 6 鑑賞文中にある「静かな秋の夕暮れ」という部分に注目すると、Cの短歌と、Dの俳句には、それぞれ「夕立」「紫陽花の花」、「遠雷」という語句があり、夏の情景が描かれていることがわかるので、この鑑賞文には当てはまらないことがわかる。また、Eの俳句には「月のよければ」とあり、日が暮れて夜になっていることがわかるので、これも当てはまらない。さらに、Gの俳句には「朗らかな松虫」とあり、明るく晴れ晴れとした感じで鳴いている松虫が描かれていて、「静か」や「水墨画のような趣」とは合わないの、これも不適當である。一方、Fの俳句には、「暮れて」「黄昏（たそがれ∥夕方の薄暗い時）」という「夕暮れ」を表す表現があり、遠景である「山」にも、近景である「野」にも、夕暮れ時のひっそりとした気配が充満していて、秋のどことなく感じられる秋の寂しさを印象付けている。これらのことから、Fを導き出す。